

## 平成27年度第3回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時  
平成28年3月8日（火）13:30～15:30

2 場所  
独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

「平成27年産秋冬野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、春野菜の需給・価格の見通しについて、3月1日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換を行った。

その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、3月17日開催の「平成27年度第3回野菜需給協議会」に報告することとなった。

なお、春野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

#### (1) 春キャベツ（4～6月）

##### ① 供給見通し

・作付面積については、神奈川県及び愛知県は微増、千葉県は前年並みと見込まれている。

・生育状況については、千葉県産の「春系」は、暖冬の影響により生育が前進傾向で推移し、「初夏」は、概ね順調に推移し、4月上旬まで定植が続くと見込まれている。神奈川県産は、暖冬及び適度な降雨により、生育が前進している。愛知県産は、暖冬の影響で「冬系」の出荷が早めに終了し、「春系」及び「初夏」は生育が前進傾向で推移している。

・出荷量については、4月は愛知産の前月までの前進出荷の影響などもあり前年を下回り、5月は神奈川県産が適度な降雨により順調な出荷が見込まれるため、前進出荷で少なかった前年を上回り、6月は前年並みと見込まれている。

##### ② 需要・価格見通し

・価格については、5月は降雨等で入荷が少なく高騰した前年を下回り、4月及び6月は干ばつ等の影響で平年に比べて高かった前年並みと見込まれる。

・加工・業務用は、愛知県産の残量が少なくなることが予想されるため、4月以降用に価格が安かった秋冬キャベツを貯蔵している業者もある。

また、昨年9月の茨城県における大雨の影響で国産が減少すると予想し、早めに中国産を手配した業者が、国産の価格安もあり多くの在庫をかかえたことから、現在、中国産を手当てする動きは鈍い。

#### (2) 春だいこん（4～6月）

##### ① 供給見通し

・作付面積は、長崎県はわずかに増加、千葉県は前年並み、北海道は微減と見込まれている。

・生育状況については、北海道産の定植は順調に進み、生育も順調に推移している。千葉県産は、降雨の影響で、播種時期にバラつきが見られるが、生育は順調に推移している。長崎県産は、暖冬の影響で、病害虫の発生が心配されたが、大きな影響はなく生育は順調に推移している。

・出荷量については、4月及び5月は、主産地の生育が順調なことから、降雨等の影響で少なめであった前年を上回り、6月は千葉県産や長崎県産が終盤を迎えた中で、北海

道産の生育が順調であることから前年並みと見込まれている。

② 需要・価格見通し

・価格は、主産地において、概ね潤沢な出荷が見込まれることから、4月及び5月は降雨等の影響で高かった前年を下回ると見込まれている。6月は、長崎県産が前年の半分程度となるものの、北海道産が順調な出荷が見込まれることから、前年並みと見込まれている。

・加工・業務用は、昨年、千葉県産の生産量が少なかったこともあり、契約数量を増加させる業者や、契約産地に早めの定植をお願いして数量を確保する業者が見られる。

(3) たまねぎ（4～6月）

① 供給見通し

・作付面積は、北海道及び兵庫県は前年並み、佐賀県はやや減少すると見込まれている。

・生育状況は、北海道産、佐賀県産及び兵庫県産ともに生育が順調に推移している。

・出荷量については、4月は北海道産が大玉を中心に計画的な出荷が見込まれ、6月は佐賀県産を中心に順調な出荷が見込まれることから、前年を上回る見込み、5月は前年並みと見込まれている。

② 需要・価格見通し

・価格は、期間を通して、佐賀県産の不作による入荷量の減少から高かった前年を下回ると見込まれている。

・加工・業務用は、中国の一部地域で寒波があり貯蔵物が少ないなか、中国産への韓国からの引き合いも強く、輸入価格が高くなることが考えられる。

・国内相場が高くなると、中国産に対する需要が高くなることが考えられるが、自らむき玉に加工できる業者の中には、単価の安いニュージーランド産に切り替える動きが見られる。しかし、加工できない業者は、従来通り中国産で対応するものと考えられる。

(4) 春夏にんじん（4～7月）

① 供給見通し

・作付面積は、長崎県は前年並み、北海道は微減、青森県及び千葉県はわずかに減少、徳島県はかなりの程度減少すると見込まれる。

・生育状況については、北海道産の生育は順調に推移している。青森県産は雪解けも早く、生育も順調に推移している。千葉県産は、気温が高く生育は順調に推移している。徳島県産は、1月下旬の寒波の影響で、一時生育が停滞したが、現在は回復している。長崎県産は、降雪があったものの、被害もなく順調に生育している。

・出荷量については、4月は徳島県産の作付の減少もあり前年を下回ると見込まれ、5月及び6月は、主産地において暖冬の影響もあり、生育も順調なことから、前年を上回って推移すると見込まれ、7月は前年並みと見込まれている。

② 需要・価格見通し

・価格については、4月は前年を上回ると見込まれ、5月及び6月は順調な入荷が見込まれ、天候不順から小振りとなり高かった前年を下回ると見込まれ、7月は前年並みと見込まれている。

・加工・業務用は、中国産が曇天・長雨等の影響により生育が悪いことに加え、国内向けや東南アジアからの引き合いが強いことから、輸入価格が高値となっている。

・現在、国産の価格が安いことから、加工・業務用も国産で対応しているが、今後は価格が上がる見込みのため、中国産に切り替える業者も出てくる。

(5) 春はくさい（4～6月）

① 供給見通し

- ・作付面積については、茨城県産は大幅に増加、長野県産はわずかに減少すると見込まれる。
- ・生育状況については、茨城県産は、気温が高く生育が前進傾向で推移し、長野県産は、前年より早く生育している。
- ・出荷量については、4月及び5月は、茨城県産が生育も順調で、作付面積も増加したことから、降雨、低温、日照不足の影響により少なかった前年を上回ると見込まれ、6月は、長野県産が前年より早い生育となるなど、順調な生育により前年を上回ると見込まれる。

② 需要・価格見通し

- ・価格は、茨城県産の作付面積の増加に加えて、長野県産の出荷の前進などにより、主産地の入荷が順調であると見込まれることから、期間を通して高かった前年を下回ると見込まれている。
- ・加工・業務用は、秋冬作は品質劣化が著しく、貯蔵できる数量が少ないことから、契約産地に早めの定植をお願いして数量を確保する業者や市場から購入する業者など、様々な対応がとられている。4月中旬までは市場価格が上がる可能性もある。

(6) 春レタス（4～5月）

① 供給見通し

- ・作付面積は、茨城県はわずかに減少、長野県及び兵庫県はやや減少すると見込まれる。
- ・生育状況は、茨城県産は、気温が高いことから生育が前進傾向し、長野県産は順調に生育し、兵庫県産は、暖冬の影響により生育が前進傾向で推移している。
- ・出荷量については、4月は主産地の面積が減少したものの、生育が順調であったことから前年並みと見込み、5月は長野県産の生育が順調であることから前年並みと見込まれる。

② 需要・価格見通し

- ・価格については、4月は一時的に高騰した前年を下回り、5月は前年並みと見込まれる。期間を通じて、平年を上回る見込み。

以上